

令和6年度 自己点検・自己評価結果

1 自己点検・自己評価の目的

看護師養成所の責任として教育水準の維持・向上を図るために、教育活動及び学院運営のあり方全体を自己評価するものです。

2 結果

(1) カテゴリー別評価

教育活動の9カテゴリー（48項目）に対する教職員の評価を、「そう思う：4点」「ややそう思う：3点」「あまりそう思わない：2点」「そう思わない：1点」と点数化して、集計した結果のカテゴリー別平均点を表1・図1に示しました。

全カテゴリー48項目別の平均点は表2に示しました。また、カテゴリー別評価割合は図2に示しました。

カテゴリー別平均点で最も高いのは「入学」3.9、最も低いのは「研究的活動」3.3でした。昨年度と比較し、平均点が上昇したのは、「教授・学習・評価過程」「経営・管理過程」「入学」の3つのカテゴリーで、平均点が低下したのは、「教育理念・教育目的」「地域社会」の2つのカテゴリーでした。

表1 カテゴリー別平均点

カテゴリー	評価項目の概要	カテゴリー別平均点	昨年度
I 教育理念・教育目的 (4項目)	教育理念・教育目的は学院の教育上の特徴を示し、学修指針の明示。教育内容、教育方法、教育環境を述べ、卒業時の学生像を明示	3.8	3.9
II 教育目標(4項目)	教育理念・教育目的と教育目標の一貫性、到達目標を示し、看護実践能力の育成表現、卒業後の継続教育の考えを示した目標の設定	3.8	3.8
III 教育課程経営 (9項目)	教育目的・目標に沿った教育課程編成、単位履修方法・単位認定基準、教育課程の評価体系の整備。教員の担当科目と準備時間、実習施設確保、安全教育の体制	3.6	3.6
IV 教授・学習・評価過程 (4項目)	看護学教育として妥当な授業内容か、授業内容に応じた授業形態、目標達成評価とフィードバック、学習の動機づけと支援体制	3.7	3.5
V 経営・管理過程 (11項目)	設置・管理運営に関し教職員の理解、意思決定システム・役割の明確化、組織決定事項の周知、施設設備、学習継続支援体制、教育活動への関係者の協力支援、中長期・年間計画立案、自己点検評価の取組み	3.7	3.5
VI 入学(4項目)	入学者選抜方法の明確化、選抜方法妥当性検討、入学者の確保活動	3.9	3.8
VII 卒業(4項目)	卒業時の目標到達および就業・進学状況分析、就業先での問題分析、卒業生の活動状況把握と分析	3.7	3.7
VIII 地域社会(3項目)	地域社会貢献、教育活動へのニーズ把握、地域への情報発信	3.8	3.9
IX 研究的活動(5項目)	自己研鑽・相互研鑽システム整備、研究活動への支援体制、研修成果の教育活動への反映	3.3	3.3
平均点		3.7	3.7

表2 カテゴリー項目別平均点

カテゴリー	項 目	R6 年度	R5 年度
Ⅰ. 教育理念・教育目的	1. 看護学院の教育上の特徴を示し、法との整合性がある。	3.9	4.0
	2. 学生の学修の指針となるよう明示し、指針となっている。	3.8	3.9
	3. 看護師の質確保のための教育内容、教育方法、教育環境を述べている。	3.9	3.9
	4. 卒業時の資質を明示し社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3.8	3.9
Ⅱ. 教育目標	5. 教育理念・教育目的と一貫性があり、教育内容を網羅している。	3.9	3.9
	6. 教育活動の到達目標を示し、具体的で実現可能なものとなっている。	3.9	3.8
	7. 育成すべき看護実践能力と学習者としての目標を設定している。	3.8	3.9
	8. 卒業後の継続教育の考え方を示した教育目標である。	3.6	3.8
Ⅲ. 教育課程経営	9. 明確な根拠をもって教育課程を編成している。	3.7	3.7
	10. 明確な考え方と根拠で科目・単元を構成し、教育目的・目標に対して妥当である。	3.7	3.7
	11. 科目配列、履修方法、単位履修の方法と制約をわかりやすく示している。	3.8	3.7
	12. 単位認定の基準・方法は妥当である。	3.9	3.9
	13. 教育課程を評価する体系を整えている。	3.7	3.6
	14. 教員の専門性を配慮した担当科目・時間数を配分し授業準備時間をとれる体制を整備。	3.1	2.8
	15. 臨地実習施設を確保し、指導体制がとれている。	3.6	3.6
	16. 対象者の権利尊重の考え方に基づき学生指導を計画的に行っている。	3.6	3.6
Ⅳ. 教授・学習・評価過程	17. 安全教育、安全対策を計画的に行い、発生事故の把握と分析をしている。	3.6	3.8
	18. 授業内容は科目目標と看護学の内容として妥当、科目間の整合性、発展性が明確。	3.8	3.7
	19. 授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じ選択し効果的指導体制がとれている。	3.7	3.4
	20. 目標達成の評価とフィードバック	3.6	3.4
Ⅴ. 経営・管理過程	21. 学習への動機づけと支援ができています。	3.6	3.4
	22. 設置・管理運営に関する管理者の考え方が明示され、教職員は理解している。	3.6	3.5
	23. 組織体制は教育目的達成のために意思決定システムや権限、役割機能が明確である。	3.6	3.4
	24. 組織構成員の意思の反映や決定事項の周知がされている。	3.4	3.1
	25. 教職員任用の考え方と資質向上対策の考え方は、教育理念・教育目的と整合性がある。	3.6	3.4
	26. 教職員は、どのような財政基盤で成り立っているかを理解している。	3.4	3.5
	27. 必要な施設設備及び備品を計画的かつ状況に合わせて整備している。	3.6	3.5
	28. 学習継続のための支援体制が整っている。	3.6	3.5
	29. 教育・学習活動に関する関係者の協力支援を得ている。	3.8	3.6
	30. 看護師養成機関として、社会的説明責任を果たしている。	3.9	3.8
	31. 中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3.8	3.8
	32. 自己点検・自己評価組織があり、課題や改善への取り組みを継続している。	3.9	3.9
Ⅵ. 入学	33. 入学選抜委員会を組織し選抜の考え方を明確にしている。	3.9	3.8
	34. 入学後の成績、学習状況を分析し、選抜方法の妥当性を検討している。	3.9	3.8
	35. 入学試験に関して公平性、公明性を確保し、一貫した対応をしている。	3.9	3.9
	36. 積極的な募集活動を行い、入学者の確保に努めている。	3.9	3.9
Ⅶ. 卒業	37. 卒業時の教育目標の到達状況を捉え、分析している。	3.8	3.8
	38. 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3.9	3.9
	39. 卒業生の就業先評価を把握、あるいは調査し、問題を明確にしている。	3.5	3.6
	40. 卒業生の活動状況を把握、あるいは調査し、分析している。	3.7	3.7
Ⅷ. 地域社会	41. 教育活動をとらえて、地域社会への貢献を組織的に行っている。	3.8	3.9
	42. 教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	3.8	3.8
	43. 教育活動について、地域に情報発信している。	3.9	3.9
Ⅸ. 研究的活動	44. 教員が自ら成長できる自己研鑽のシステムを整えている。	3.3	3.4
	45. 教員が相互研鑽できるシステムを整えている。	3.3	3.3
	46. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)し、助言・検討する体制を整備。	2.8	3.0
	47. 教員は研修目標を明確に持ち、成果を教育活動に反映させている。	3.5	3.5
	48. 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある。	3.4	3.3
全 体		3.7	3.7

図1 カテゴリー別評価

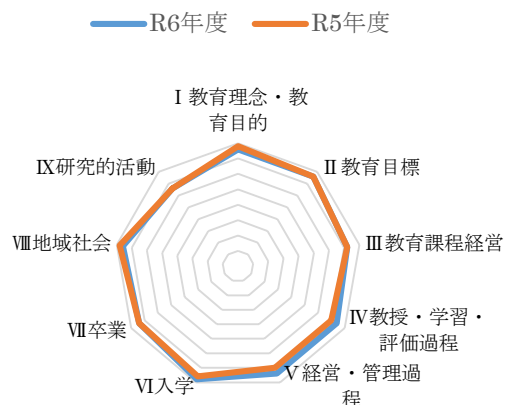
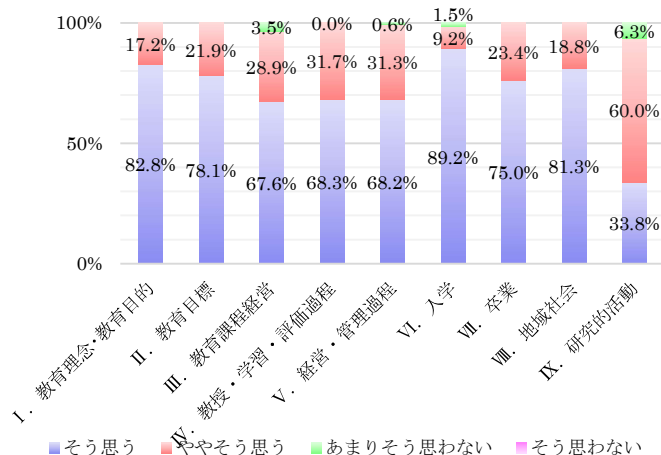


図2 カテゴリー別評価割合



(2) カテゴリー項目別評価

I 教育理念・教育目的 (3.8)

当学院は、「人間の尊厳」を核として、地域で暮らす人々が持てる力を発揮し、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを支援できる看護実践者として、十勝地域の保健・医療・福祉の向上発展に貢献できる専門職業人を育成することを教育理念としています。看護師の使命と役割を果たす上で日頃から責任ある行動を徹底して求め、豊かな人間性と倫理観を身につけた専門職業人に育つことを願い、看護実践力と自己教育力の育成に努めています。

評価項目すべてにおいて高得点であり、教職員が教育理念・教育目的のもと教育運営にあたっているものと考えます。

II 教育目標 (3.8)

昨年とほぼ同様の評価であり、教育目標に向かって教育内容を精選するとともに教育活動の到達目標を常に意識しながら教育を運営してきた結果と考えます。今後も教授・学習活動について常に評価・修正しながら到達目標を設定し、教育目標の達成を目指します。

III 教育課程経営 (3.6)

評価項目別では全体的に例年同様の平均点でした。最も平均点が低かった項目は「教員の専門性を配慮した担当科目、時間配分と授業準備時間をとれる体制整備」ですが、昨年度より若干上昇がみられています。教員体制の変化と実習指導等に要する時間により授業準備時間をとることが難しい状況が続いているものの、多くの関係機関の協力のもと、多様な施設での実習と講師による専門性の高い教育を維持しています。教育の質を維持し、教員が働きやすい環境をつくるとともに学生が安全に安心して学習に取り組み、目標に向かって自らの力を発揮できるよう努めていきます。

IV 教授・学習・評価過程 (3.7)

全評価項目で平均点が上昇しました。「学習への動機づけと支援」は、昨年度全 48 項目中最も得点が低下した項目でしたが、今年度は 0.2 点上昇しています。講義・演習・実習において、目的・目標の達成を目指して到達目標を見直ししながら、これだけは外せない重要な内容を明確にする過程を各教員が丁寧に取り組んできました。併せて評価の視点や基準を検討してきた結果が反映されたものと考えます。

入学時から各年次別に個別的な学習支援を継続していますが、年々学習支援の必要な学生が増え、学習推進力の差も顕著になっています。看護に必要な知識・技術を習得・活用しながら多様な健康状態にある対象者を理解し、対象者の望む生活に向けて必要な看護を思考する力と状況に応じて適切に行動できる能力をどう積み上げていくか、毎年試行錯誤しています。特に臨地実習は看護実践能力を育成するうえで要となる科目であり、教育理念・教育目標と卒業生像との一貫性をもって教授・学習・評価を繰り返し、学生の主体的な学びを支援していきたいと考えます。

V 経営・管理過程 (3.7)

十勝管内市町村の財政支援と経営管理体制により安定した学院運営が維持されています。毎年必要な施設設備及び備品、学習教材を予算化し、了承を得て学習環境を整備しています。今後も良好な学習環境を提供できるよう十勝管内構成市町村及び関係機関と協議の上、学院運営を適切に進めていきます。また、今年度は全体的に平均点が上昇し、昨年度最も低かった「組織構成員の意思の反映や決定事項の周知」は0.3点上昇しています。今後も組織構成員の意思が反映され、学習継続が効果的に支援できる体制づくりに努めていきます。

VI 入学 (3.9)

全体的に高得点であり昨年同様の結果でした。入学者選抜委員会を組織し、入学者選抜方法と入学後の成績の推移を分析し、広く看護志願者を受け入れられるよう選抜方法の妥当性を検討しています。また、十勝管内市町村立の公的養成機関として入学者選抜に関する公平性、公明性は確保されているといえます。高校訪問等でのPRと受験生確保対策委員会を中心としたオープンキャンパスの企画・運営、今年度立ち上げた学院広報推進委員会は、学生による学院PR部の活動を支援し、看護師の仕事や看護の学習について受験生等にPRするとともにSNSを活用した積極的な広報活動を展開しています。18歳人口の減少と大学志願者が増加する中、3年課程の看護師養成所として十勝地域で求められる役割と使命が果たせるよう努力していきます。

VII 卒業 (3.7)

評価項目4項目のうち「卒業生の就業先評価の把握、調査による問題点の明確化」が最も低く、昨年度と同様の結果でした。卒業生とのつながりは深く、卒業後の就業状況等、個別に様々な情報を得る機会はあるものの、就業先評価は未実施の状況です。卒業生が就業先で抱える課題や困難さ等の実態や活動状況について卒業生及び就業先から把握し、教育活動の評価と就業先との連携のあり方について検討することが継続課題です。

VIII 地域社会 (3.8)

昨年同様、高い平均点でした。十勝地域のニーズを把握し、看護師養成のあり方を見つめながら保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成に学校組織として責任をもち、その使命を果たせるよう教職員の意識の向上と教育活動の充実・発展に努めていきます。

IX 研究的活動 (3.3)

例年同様、最も平均点の低い結果でした。研究的活動に取り組むことのできる組織的な体制づくりは継続課題です。現状においては看護技術や各専門看護学における演習、臨地実習の教材化に関して議論しながら改善点を見出し、教授活動に反映させることを継続していきます。

<今後の課題>

- 十勝地域の保健医療福祉に貢献する意志をもつ学生の確保と教員体制の安定化
 - ・教員の担当科目・時間数の配分と授業準備時間の確保
 - ・教員の研究活動の保障・体制づくり